

中国非開削技術協会 (CSTT) 視察団との交流会

JSTT 日本非開削技術協会
事務局

JSTTでは国際非開削技術協会（ISTT）や相互交流協定を締結した欧州やアジアの非開削技術協会（各国STT）の関係技術者・団体との間での交流を通じて、日本の非開削技術の向上およびその海外展開への貢献をすることとしています。

今般、中国非開削技術協会（CSTT）より「下水道展'14大阪」へ視察団を派遣する計画があり、日本と中国との非開削技術に関する交流会を開催することになりました。以下にその概要をご紹介します。

7月22日（火）

【歓迎レセプション】



朱文鑑団長（中国非開削技術協会事務局長）以下視察団17名は22日午前10時にコスモスクエア国際交流センターに到着し、安中徳二会長から視察団への歓迎のあいさつを行いました。

そのあと、視察団は「下水道展'14大阪」の見学に出かけました。

午後1時半からは「下水道展'14大阪」を主催する（公社）日本下水道協会の曾小川久貴理事長との懇談会をインテックス大阪の特別室で行いました。

理事長からは中国視察団の歓迎の意を表すとともに日本の下水道事業の概要や今回の下水道展について説明がありました。そのあと懇談が行われ、中国視察団

から熱心に質問が寄せられ、約1時間の懇談が行われました。懇談のあと一同で曾小川理事長を交え記念写真を撮りました。

主な質問事項をあげると以下のとおりです。

- ・下水道管で半分ぐらい埋まっている管の洗浄技術はあるのか。
- ・下水道展には推進マシンがたくさん展示されているが開発には政府から補助金があるのか。
- ・日本では下水道工事をする会社に制約はあるのか。
- ・推進技術者の資格試験制度はいつごろから始まっているのか、資格の有効期間は永久か。
- ・推進工事における人身事故はどのくらいあるのか。

【講演】



午後4時からコスモスクエア国際交流センター会議室にて日中のそれぞれの代表者による講演を行いました。開始に当たり安中会長からは、非開削技術の進歩や工事現場は一つとして同じものがなく情報交換の必要性を強く感じることから、本日の交流会が有意義なものになることを期待するとのあいさつがありました。

また、中国側の朱文鑑団長からは、今回の来日に当たりJSTTや関連部門にお世話になったことへのお礼を述べるとともに、中国では今大きな発展の中にあるが、下水にいたっては緒についたばかりである、たく

さんのことを日本から学びたいと考えている。特に推進、修繕、更生工事など日本の高い技術を学びたいとのあいさつがありました。

日本側からはパルテム技術協会小川和夫常務理事から「管路更生工事の安全管理」について講演がありました。

事故の経験から、個々人の安全意識を向上することが大切であるのはもちろんだが、ミスは起こるという前提で防止策を徹底することとして、安全への意識を変えるための環境づくり、ルール違反を起こさせないシステムづくり、危険要因の排除と危険からの回避という視点が大切との話がありました。

中国側からは朱文鑑団長から「中国非開削技術の現状」について講演がありました。

中国国内での非開削の現状としてHDD工法が多いこと、地下設備の管理者が独立しており地下設備の把握が大変であること、下水管路の老朽化と容量の不足への対応が急務であること、また、雨水と下水の分流や修理に加え下水管路の調査によるデジタル化の管理も取り組み10年くらいかけます都市部の排水をしっかりと、2015年には汚水処理率85%する計画を説明しました。

その中で推進、管路補修の技術は子どもみたいな状況であり、推進工事はできるがドイツや日本と比べるとまだまだであり、日本の技術に大きな期待をしているとのことでした。

CSTTの取り組みとして、2016年に北京でISTTの総会・展覧会が行われるが、隣国の日本にもぜひご協力をお願いし、ぜひ成功させたいとのことでした。

【懇親会】



引き続き午後6時から20階のレストランで懇親会を

行いました。

安中会長、朱文鑑団長からそれぞれあいさつがあり、楠田哲也副会長（九州大学名誉教授）のご発声で乾杯を行い、親交を深めました。懇親会では4名の通訳を交え、日本側参加者15名との情報交換を行うとともに日本料理やお酒を満喫していただき、メは松井大悟前会長から日本のメの文化の説明を行い午後7時過ぎに懇親会はお開きになりました。

7月23日(水)

【株推研の工場見学】



今回の視察では推進機械メーカーの株推研の平野工場にお伺いしました。中国視察団は日本の安全管理について要望があったことから、見学は朝8時30分の安全ミーティングに始まり、会議室でのCMT複合推進工法の説明とビデオの視聴、そして工場内で納入待ちの推進マシンなどの工場内を見学しました。

朝の安全ミーティングではラジオ体操を見よう見まねで取り組む視察団の方もいました。また、今日の危険ポイントの整理や全員で危険防止の唱和などに加え、社長も入った全社員の取り組みに物珍しそうでした。続いて会議室でCMT複合推進工法の説明やビデオ視聴終了後の質問時間では、最大施工延長、マシンの最大径、マシンの値段、中国で工事するにはどうすればいいのかなど活発な質問が行われ意識の高さをうかがうことができました。

最後の工場内の推進マシンの見学では、マシンのカッター部や推進ジャッキの操作なども行い理解が深まったようでした。

今回の中国視察団の来日に関してご協力いただいた各位に心からお礼申し上げます。